

授業概要

小学校 5 年生から学ぶ「家庭科」について、教科の特性や現代の子どもたちの生活実態に触れながら、家庭科を学ぶ意義などについて検討していく。家庭科の基本理論である家政学の視点を知り、明治以降の「家庭科」の目標、内容についての歴史的変遷をたどりながら、家庭科教育の理念や目的、特性を理解するように講義をする。

小学校家庭科の教科内容、指導方法等の基本的な事項について、講義、演習、実習を通じて、指導者に必要な知識理解とともに実践的な技能・態度を培う。

授業計画

第 1 回	本授業のガイダンス（受講者の確認、学んできた家庭科を振り返る等）
第 2 回	家庭科教育の本質（歴史的社会的背景からの考察）
第 3 回	家庭科教育の目的と理念
第 4 回	家庭科の内容構成、枠組み
第 5 回	家政学の環境概念と家庭科
第 6 回	家庭科の学習内容の検討①家族・家庭生活の基礎理論と家政学
第 7 回	家庭科の学習内容の検討②衣生活の基礎理論と家政学
第 8 回	家庭科の学習内容の検討③食生活の基礎理論と家政学
第 9 回	家庭科の学習内容の検討④住生活の基礎理論と家政学
第 10 回	家庭科の学習内容の検討⑤消費生活・環境の基礎理論と家政学
第 11 回	家庭科の学習内容に関する体験学習からの検討①情報機器の活用と生活時間調査
第 12 回	家庭科の学習内容に関する体験学習からの検討②衣服の着用と手入れ
第 13 回	家庭科の学習内容に関する体験学習からの検討③食事の役割と栄養
第 14 回	家庭科の学習内容に関する体験学習からの検討④ごみ処理調査
第 15 回	家庭科の学習内容に関する体験学習からの検討⑤家計簿作成
第 16 回	まとめ・レポート提出

到達目標

家庭科の基礎理論である家政学の思想を背景とした小学校家庭科の目標、教科内容等基本的な事項について理解できる。

身近な生活課題を発見しそれを解決するための方策を主体的に考えることができる。

家庭科の学習指導において必要な知識理解とともに実践的な技能・態度を身に付けることができる。

履修上の注意

小学校教諭を目指す学生は履修をすることが望ましい。また、「初等教科教育法（家庭）」を履修する前に、本授業を履修すること。

予習・復習

予習として、小学校学習指導要領解説（家庭編）の授業計画に該当する内容を読んでおくこと。授業で学んだこと、課題等を復習として各自行うこと。

新聞やインターネットから、家庭、生活に関する時事問題を探しておく。

評価方法

期末レポート（50%）、授業態度（30%）、小課題レポートの評価（20%）から総合的に評価する。

テキスト

- 教科書名：自然と社会と心の人間学
- 著者名：佐藤真弓他
- 出版社名：一藝社
- 出版年（ISBN）：978-4-86359-209-4

- 教科書名：小学校学習指導要領解説（平 29 告示）家庭編
- 著者名：文部科学省
- 出版社名：東洋館
- 出版年（ISBN）：978-4-491-03466-9